

くまさんのおくりもの 第3話

りんごのバターケーキのおくりもの

[後編]

かしこうぼう うちこし

秋の おとずれと ともに、

まち すっと 続く イチョウ並木は、

緑から黄緑、黄色へとかわりました。

そのイチョウ並木をずっと西へ行くと、

ひときわ濃い緑の森があります。

もり まく かぜ その森の奥から 風にのって、

今日も、ケーキ屋さんの くまさんが、

おいしいお菓子を作っているようです。

このお話は くまさんが、ケーキ屋さんを サース また はない カーキ屋さんを 関く、もう少し 前の お話です。 うろこ雲が きれいな、よく晴れた 秋空の お昼すぎ。 くまさんは、おやつのクッキーをもって、 **
今日も ごきげんよく、どこかに お散歩のようです。



くまさんは、もう一度 行きたい 場所があります。 その場所を さがし はじめてから、今日で もう3日目。 さがしても さがしても、見つかりませんでした。



それは、あのおいしい りんごのバターケーキを 食べた $\begin{bmatrix} ^{t}$ t t

お友だちの うさぎさんや、リスくんを 見かけても、 こそこと コソコソと 気づかれないように していました。



だって、もし、あの家に、 あのおいしい りんごのバターケーキが、のこっていたら・・・ くまさんは ひとりじめして、

おなか いっぱい 食べたいと 思っていたからでした。

「おかしいな〜、リスくんの家を 右に 曲がって・・・ えっと・・・それから・・・う〜ん」

歩きつかれた くまさんは、 ^ と ^ と ^ ト へ ト になって 家に 帰ってきました。

「今日も 見つからなかったな〜、
おかしいな〜 たしかに あったのにな〜」
「あっ、そうだ!
あのとき、こびとさんと いっしょだったよ。
こびとさんに 聞いてみよう!!」



くまさんは、どうしても あの家へ 行きたかったので、 さっそく、こびとさんに 聞いてみることにしました。